

今はなき王国のための地図

おぼえていますか？

このあたり、新宿西口地下街には、10年前、使用済みの工業ダンボールで作られた、路上生活者のための小さな仮設住宅がひしひしと広がっていました。西口ロータリーの中央左端や都庁へ抜ける通路、京王新宿への通路を歩けば、無数のダンボールハウスを目にしたことでしょう。2〜300名ほどの人が暮らしており、誰がどうにもなく「ダンボール村」とも呼ばれました。

それはひとつの王国のようでした。でも、そこに王はいなかったのです。なぜなら、それはバブル経済が崩壊したあと、1994年以降の大不況により、街におふみ出た失業者たち、いわゆるホームレス（路上生活者）により、自然にかたちづくられた、一種の「自治区」であったからです。

はじめ殺風景で殺伐としたダンボール村は、いつしか、色とりどりの壁画に覆われていきました。武盾一郎、吉崎妙子、山根寿弘、鷹野依登久らの美術家が、ダンボールハウスに住んでいた人たちの詩を得ながら、小さなペンキで様々な絵を描いていきました。ダンボール村は、次第に「芸術自治区」になりました。

「新宿の左目」、「スイートホーム」、「平家物語」など、「路上生活者により不法占拠である」として、たびたびダンボールハウスの強制撤去を行っていた行政側に加え、廃棄することを躊躇したほどの傑作を生み出しました。世界的に有名になり、いつかの寶に輝きました。

そのおかげで、自治区には、ダンボールハウス建築家という職業が生まれました。初めこの路上10円古本屋が誕生し、経済行為が発生しました。作品展や写真展、上映会も路上で行われるようになり、住民のための毛布や炊き出し用品を回収するための、倉庫も建設されました。

それはほど大きな村でさえ、消滅するときは一瞬のことでした。長野オリビエの前にして、ダンボール村は火に包まれました。4名の尊い命が失われました。1998年2月7日早朝のことでした。14日には、自主退去の形で、村は永久に消えました。

1995年8月14日から1998年2月14日まで期間、この地に存在した芸術自治区＝ダンボール村の、誰も建設しなかった碑銘にちなんで、この地図をあなたに贈ります。

2005年 新宿区ダンボール絵画研究会

- ◎追川尚子写真展「ダンボール村～96.1.24-98.2.14～」
日時：8.1(mon)～9.30(fri) 7:00～23:00(8.22休)/場所：ベルク
- ◎ライブペインティング「一寸法師ライブペインティング」
日時：8.13(sat)11:00～16:00/場所：東京都庁南展望室/出演：武盾一郎
- ◎ブックフェア「Paintings on the cardboard houses at Shinjuku Underground in Tokyo, Japan 1995-1998」
日時：9.4(sun)～9.25(sun)11:00～20:00/場所：ナディップ
- ◎トークショー「過剰なリアリズム～シュールレアリスムとグラフィティの交差点～」
日時：9.10(sat)16:00～18:00/場所：ナディップ/出演：毛利嘉孝・武盾一郎・深瀬鋭一郎
- ◎展覧会「ダンボールに描く夢－新宿区ダンボール再生芸術研究会」
日時：9.18(sun)～10.10(mon)10:00～21:00(9.26休、最終日～19:00)/場所：エコギャラリー新宿2F
- ◎新宿ツアー「今はなき王国を歩こう」
日時：9/19,23,24,25,10/1,2・14:00～16:00/集合場所：エコギャラリー新宿2F/コンダクター：武盾一郎
- ◎シンポジウム「段ボールハウス絵画とは何だったのか」
日時：10.8(sat)～10(mon)14:00～16:00/場所：エコギャラリー新宿2F研修室
出演：8日・平井玄・池上善彦・武盾一郎・深瀬鋭一郎/9日・武盾一郎・深瀬鋭一郎・他/10日・中原佑介・毛利嘉孝・武盾一郎・深瀬鋭一郎